

学生争奪へ次の一手



オープンキャンパスでゼミの研究成果を発表する学生ら。近くの東京ドームの集客アイデアを披露した。東京文京区の東洋学園大

「自信・意欲育てる」

私立の東洋学園大は昨年の入学生から、一部の学部で4年間とも東京都文京区のキャンパスに通う形に変えた。それまでは1、2年時は千葉県流山市だったが、都心に移すことで受験生の増加を狙った。効果は表れ、2013年度は全学部で定員割れだったが、都心に移った学部では受験生が増加。来春に全学部の移転が完了する。

1992年に開学し、学生数は約2千人。7月、現代経営学部の井原久光教授のゼミの様子を見た。近くにある東京ドームへの集客アイデアを班ごとに発表する日。アジアからの観光客誘致、富裕層向けブライダル……。手ぶりを交え、漫才のような掛け合いでスマートフォンをいじり続ける学生もいた。

「差」教育 「点」大学

岐路の大学

進学を決めた理由を尋ねると、「就職のためには当然、大卒でしょ」「起業したい」。将来を見据えた思いに交じり、こんな答えもあった。「やりたいことがないから」

慶応大卒の教員がいた現代経営学部は、慶応大経営大学院のような教育を目指した。有名企業の経営資料を読み込み、授業で意見を

出し合って解決策を導く方法だ。「でも、予習の習慣はない。コミュニケーションも苦手。そんな子もいる中では難しかった」と井原教授。学力が不十分な学生は、高校までの数学などの補習で支えている。

「目の前の学生に合う教育をしたら、大学の魅力になるはず」。井原教授は6年前に学部長に就いたころから、ゼミのテーマを東京ドームに変えた。試合観戦や施設見学で興味を引き出し、目立たない子もささいなことでも褒めるように心がけた。

成果を披露する場も用意。ゼミ内や東京ドーム社員への発表会で、コミュニケーション力や自信を身につけて卒業する学生が増えた。飲食店長や会社の営業職など、多くの卒業生が社会を支える。「就職後に必要な基本的な力や意欲を育てる場としての大学も必要」と井原教授は言う。

「地元」に若者」私大公立化

「地域の課題解決ができる人材を育てたい。こういう大学もあると、生徒さんに薦めてほしい」。今年7日、京都府福知山市の豊後賢次副市長が福井県鯖江市の鯖江高校を訪ね、校長らに頭を下げた。高速道を使って車で2時間弱。この日は周辺の計6校を回った。副市長が勧誘する「福知山公立大」は、まだ存在しない。人口約8万人の福知山市が新設する法人が、市内にある私立の成美大の運営を来春に引き継ぐ予定だ。「地域振興には4年制大学が必要」と今年2月、市が公立化を決めた。

2000年、京都創成大として開学。市から建設費など27億円の支援を受けたが、入学定員割れが続いた。当初は195人だった。定員は、大幅な定員割れによる補助金削減を避ける目的で削り、今年度は50人。春の新入生は36人だった。文部科学省によると、私立大の公立化は09年度の高知工科大を皮切りに全国で5例ある。いずれも定員を上回る志願者を集めていた。「人口約60万人の北近畿地域(京都、兵庫両府県の北部で唯一の4年制大学、学費も安く、定員超過は間違いない」と福知山市の松山正治市長は強気だ。北近畿地域の4年制大学への現役進学率は、全国平均を約5割下回る42%(13年度)。多くは地域外への流出だ。「若者確保の効果的な策」と市が主張する理由はここにある。初年度の目標は「志願者400人」。市長ら市幹部が周辺府県まで「延べ1千校」を目指してPR行脚を続ける。

ただ、安い学費を支えるのは公費だ。市の試算では、入学定員を200人に増やす20年度までの5年間で、赤字補充を含めて計約9億円を市が補助する。市の一般会計予算は年約410億円。市議会では「私立大の救済では」との批判も出た。新大学は、地元企業とも連携した「実践教育」を目指すという。(岡雄一郎)